

(○:評価できること ▲:今後さらに力を入れて欲しいこと)

第1章 学びあい育ちあう 自分らしさと夢を育むまち

施策	意見のまとめ
1 子どもと子育て家庭	○ 子どもの出生数が減少するなか、経済的な面だけでなく、子育て家庭を応援する社会づくりに取り組んでいる ○ オムツ処理の支援は非常に評判がよく、良い支援方策になっている ▲ こどもを中心に様々な活動をしている部署・団体の連携が必要 ▲ こども食堂の本来の目的を確認するとともに、行政との連携についても見直す時期ではないか ▲ 障がいの有無にかかわらず、切れ目のない支援が必要 ▲ すべての親を応援することも重要、誰ひとり取り残さない支援・応援を！
2 幼児教育・保育	○ 0～2歳の子どもを保育園に預けられると共働き世帯にとってはありがたい ▲ 保育二ーズの高まりの一方、将来的な減少に備える必要がある ○ 入園申請手続きの電子化は、子育て世帯に評判がいい ▲ 保育士の待遇改善や支援を行い、適切な規模の人材を確保する必要がある
3 義務教育	▲ 小学校を核に自治会等を補完するようなコミュニティ活動の展開を模索する必要がある ○ 不登校の問題など多様化する二ーズの対応にチャレンジできている ○ 部活動の地域移行、選択肢を提示できていることは良い ○ はしセットの持参がなくなったのは保護者にとってもありがたい ▲ 小学校敷地内での居場所づくりの取組について、様々な機会提供や学校とのコミュニケーションを強化する必要がある ▲ 市町村の教育行政すき間の世代(中学校卒業以降)への施策・事業が重要 ▲ 外国籍の子どもの就労・就学支援などもあるとよい
1 学びの推進	○ 学びの機会が多様になるのは良い ▲ 市民が知る、関心を持つきっかけ・ツールが必要
2 文化の振興と継承	▲ 文化の担い手は市外の人でも積極的に携われる仕組みの構築が必要 ▲ 文化財を大切する仕組み、役割分担、協働の拡大などが必要 ▲ 山車・祭り・文化財を今以上に盛り上げるため、情報発信が必要

第2章 地球に配慮しながら成長する都市の活力を育むまち

施策	議論のポイント
1 観光	○ 名鉄との連携も含め、対外的なPR・プロモーションが進んでいる ○ 観光入込客数は過去最大の 182 万人を達成した ▲ 文化の担い手づくりに向け、市民が活動に関わる場や機会を作ることが必要(例えば、クラウドファンディング、アンバサダー制度などの仕組みづくりを考える) ▲ 地域や市民団体によるイベントが増え、来場者も増えたが、今後も新しく関わる人を増やすことが必要 ▲ 国内の観光客だけでなく、インバウンドへのPRを行うとともに、市民のシビックプライドの醸成のためにも市民への魅力のPRが必要 ▲ インバウンド対応も含め、宿泊と体験のセットを考え、滞在できる場、機会を増やすことが必要 ▲ インバウンド向けにも新たな移動手段の確保を考えることが必要 ▲ 赤レンガの活用など、今ある観光資源の磨き上げを行うことが必要 ▲ 港湾機能を活かした企業誘致を考えていくことが必要
3 農業	○ 「にこもぐ」による地元へのPRができている ▲ 新たに農業に関わる人を増やすことや農業のDX化を進めることが必要
4 商工業	▲ コココリンを有効に活用し、市内外の企業や異業種とのマッチングの場、起業相談などの機能を強化することが必要 ▲ 市が産業振興のリード役の立場を発揮することが必要 ▲ 起業だけでなく、主婦等の就労支援なども考えていくことが必要 ▲ 知多半田駅前の活性化のため、クラシティは日常的に人が集まるように、図書館機能をはじめ、行政機能を高めることが必要
1 脱炭素社会	○ 農家によるバイオ発電が進んだ ▲ カーボンニュートラルに向け、市民や企業を巻き込んでいくことが必要 ▲ 事業者を後押しする取組が必要
2 循環型社会	○ 見える化や市民の協力でごみの減量が進んだ
3 生活環境	▲ 移住促進のためにも、矢勝川の水質改善や臭気対策に向けて、より一層取り組んでいくことが必要

第3章 つながり助けあう健康と笑顔を育むまち

施策	議論のポイント
1 地域福祉	▲ 福祉に関する相談窓口は、誰が利用できるのか(行政、福祉法人)、誰が対応してくれるのか分かりやすく整理してほしい ○ 福祉にかかわる機関・団体同士の連携の場ができて良かった ▲ 様々な要因で孤立・孤独を感じる人が増加しているので、個別に丁寧に支援することが重要 ▲ 今後の認知症患者増加を見越し、地域レベルでの周知・学習の機会が必要
2 高齢者福祉	▲ 認知症への対応を含めた地域包括ケアシステムを地域で取り組むことが重要 ▲ 地域での理解・支え合いの仕組みを考える必要がある
3 障がい者福祉	▲ 障がい者を育てる親の不安を解消し、就労、経済的自立につなげることが重要である
1 健康づくり	▲ 市民の健康づくりについて、食など様々なアプローチで取り組む必要がある ▲ こころの健康を地域ぐるみでケアする必要がある
2 スポーツ	○ スポーツに取り組む市民が増えている ▲ 気軽にスポーツに取り組める機会や場をより多く提供する必要がある ▲ スポーツの多様な役割に着目し、他の分野との連携を強化する必要がある ▲ 競技スポーツや健康づくりなどスポーツのどこに力点をおくかを議論し施策の重点化や施設の活用について検討すべき
1 地域医療体制	○ まちのクリニックを含め市内の医療体制は整っており、休日診療には助けられている
2 半田病院	▲ 病院の移転に伴い発生している課題を明確にしつつ、健全な経営を続けていくことが重要

第4章 安心・安全で快適な生活 質の高い暮らしを育むまち

施策	議論のポイント
1 防災・減災	○ 外国籍住民も参加した避難所訓練が行われるなど、市民の防災意識が向上している ▲ 福祉避難所との連携を強化することが必要 ▲ 外国人も含め、支援する側・支援される側がうまく連携することができると良い
	○ 最近の水害が減少している ○ 上下水道等も耐震化が進んでいる ▲ マイタイムラインを活用し、市民の防災意識の向上を図っていくことが必要 ▲ 防災無線は、スピーカーからの音が聞きにくいので、防災アプリを導入し、通知や避難所の状況などを知れると良い
2 交通安全	▲ 自転車道の整備をすることが必要 ▲ 通学路の安全対策を進めることが必要
3 生活安全	○ 防犯などの安全対策が進んでいる
4 消防・救急	○ 困りごとへの対応ができている
1 市街地	▲ 中心市街地は日常的に人が集まるようにぎわいづくりを進めることが必要 ▲ 市街地の高度利用や高架下活用、空き家活用をすることが必要 ▲ 駅前開発と交通拠点の両立でまちづくりをすることが必要
2 景観・公園	○ 都市公園は充実している ▲ Park PFI や日常の掃除などで雇用創出等ができる公園活用が必要 ▲ 魅力ある公園づくりに向け、健康づくりに役立つ公園、トイレの改善、子どもや若者が遊べるようにバスケットのコート・ゴールの設置などを行うことが必要 ▲ マイレポの対処方法や目的を見直し、市民が協力できる方法、雇用につながる方法を考えることが必要
3 移動環境	○ 市内の公共交通網の改善に向け、社会実験を行うなど、試行錯誤しながら頑張っている ▲ 市内のバスは、乗り継ぎなども含めて活用しにくいとため、循環路線、地域外に行きやすくしたり、地域外同士をつなぐ循環路線にするなどの改善が必要 ▲ 自動車免許返納を促すため、コミュニティバスを充実することが必要
1 道路	▲ 半田市は東西道路が弱い ▲ 歩行者の安全のため、歩道の雑草の管理が必要 ▲ 道路側に張り出している街路樹の剪定や伐採などが必要
2 水道	○ 半田市の水道代は安い

施策	議論のポイント
	▲ 上下水道事業の健全な運営のためには経営改善が必要
3 下水道	▲ 上下水道事業の健全な運営のためには経営改善が必要
4 港湾	▲ 港湾緑地の活用を含め、市民へ港湾をPRし、港湾イメージ UP を図ることが必要

第5章 互いを尊重し知恵と力を活かしあう豊かさを育むまち

施策	議論のポイント
1 情報共有	○ LINE などの媒体や高校生ライターを活用し、積極的に情報発信を行っている ▲ 今後、半田のファンづくりやシビックプライドの醸成により一層注力する必要がある
2 コミュニティ活動	▲ 活動の活性状況は地域によって差がある ▲ コミュニティ活動の活性化に向け、環境整備は重要 ▲ 自治会の担い手づくり、加入促進、活動の見直しを進める必要がある
3 市民活動	▲ 市民協働が推進され、活発であるが、部署により職員の理解・意識に差がある ○ チャレンジ部門の着眼点は良い ○ コミュニティ活動と市民活動との連携もみられるが、今後より一層の進化が期待される
1 多文化共生社会	○ 多文化共生の取組は着実に進んでおり、今後の一層の推進が期待される ▲ 外国人市民の高齢化が進むなか、福祉サービスの提供や地域で活躍してもらえる環境づくりが課題 ▲ 公共施設等での多言語表記を増やすことが重要
1 行政運営	○ 市民の意見を聞きながらデジタル化を推進、行政サービスを拡大できている
2 財政運営	○ 収納率が高く、公平な負担を担保できている ▲ 積極的な取組により、税収増につながる取組を展開することが重要 ▲ 公共不動産の活用並びに役所周辺の一体的な土地利用を総合的に検討することが重要